

<第103回調査>

2017年12月25日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年12月12日(火)13:00～2017年12月19日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は792件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

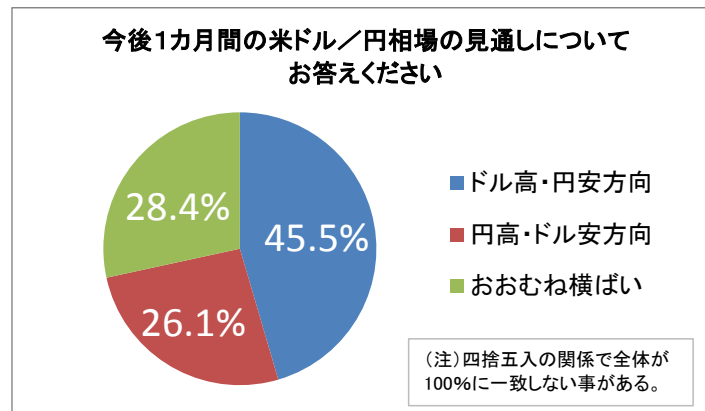
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第103回調査結果略報：個人投資家の収益状況は改善】

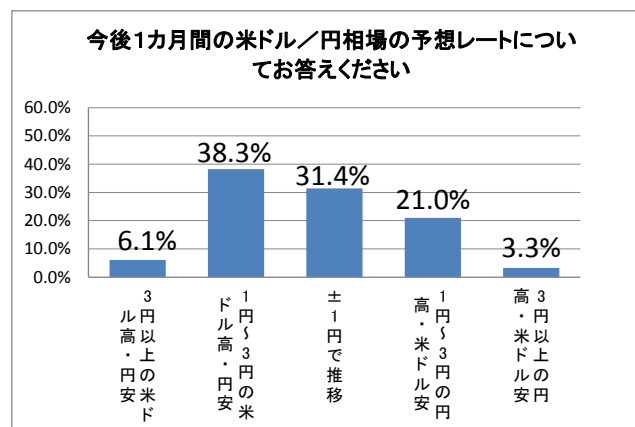
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が45.5%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は26.1%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△19.4%ポイントとなり、5カ月連続で強気見通しを示すプラス圏を維持。プラス幅は前回(△8.9%ポイント)から拡大した。調査期間中の米ドル/円相場は、米連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げにもかかわらず113円台後半から112円付近まで弱含んだ。ただ、こうした動きは年末に良く見られる投機筋の円売りポジションの手仕舞いとの見方が強い。その他、FOMCが来年3回の利上げ予想を示した事などが、強気見通しの背景にあると考えられる。
※過去の米ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が38.3%と最も多く、「±1円で推移(31.4%)」、「1円～3円の円高・米ドル安(21.0%)」、と続き以下「3円以上の米ドル高・円安(6.1%)」、「3円以上の円高・米ドル安(3.3%)」の順になった。ヒストグラムの形状は、米ドル高・円安方向に傾いており、問1の結果と整合的と言える。ただ、膠着予想を示す「±1円で推移」の回答割合が3割を超えたのは2015年10月の第77回調査以来だ。2017年のドル/円相場は1-2月を除くとレンジ色が強かったが、年末に差し掛かったところで膠着予想が増えてきた点は興味深い。



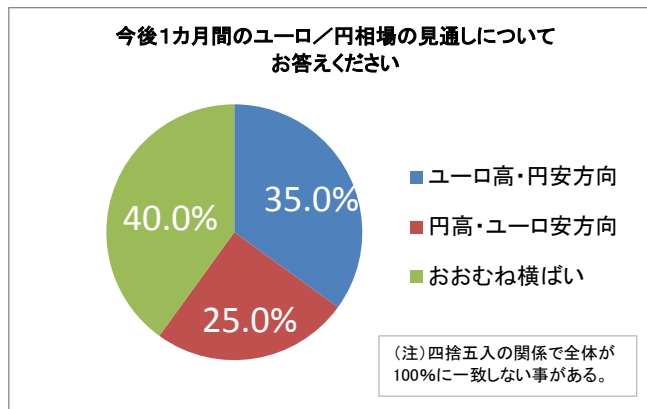
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が35.0%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が25.0%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は△10.0%ポイントと、前回(▼2.4%ポイント)からプラス圏に浮上した。調査期間中のユーロ/円相場は、欧州中銀(ECB)理事会などの注目イベントをこなしても方向感が見出せず132~133円台でもみ合った。そうした動きの中でもユーロ強気・円弱気予想が優勢となった事にはやや意外感もあるが、やはりECBの金融政策が来年以降に正常化に向かうとの見方が根強いのだろう。

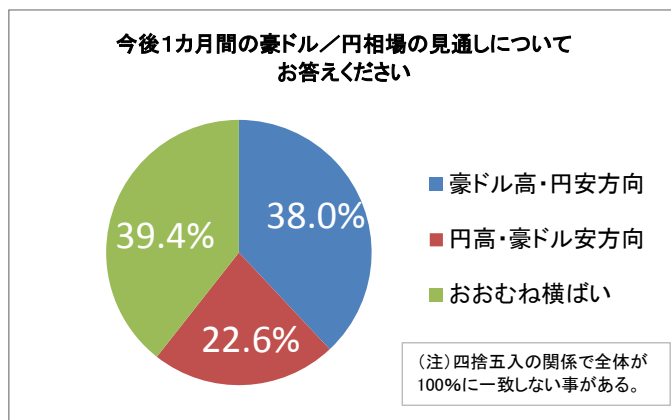
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が38.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は22.6%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は△15.4%ポイントとなり、前回(▼6.9%ポイント)から大きく上昇してプラスに転換。調査期間中の豪ドル/円相場は、世界的に株価が上昇する中、85円台から86円台で堅調に推移していた。良好な豪11月雇用統計や、豪景気の先行きに楽観的な見方を示した豪中銀(RBA)議事録なども、個人投資家の強気転換に寄与したものと見られる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

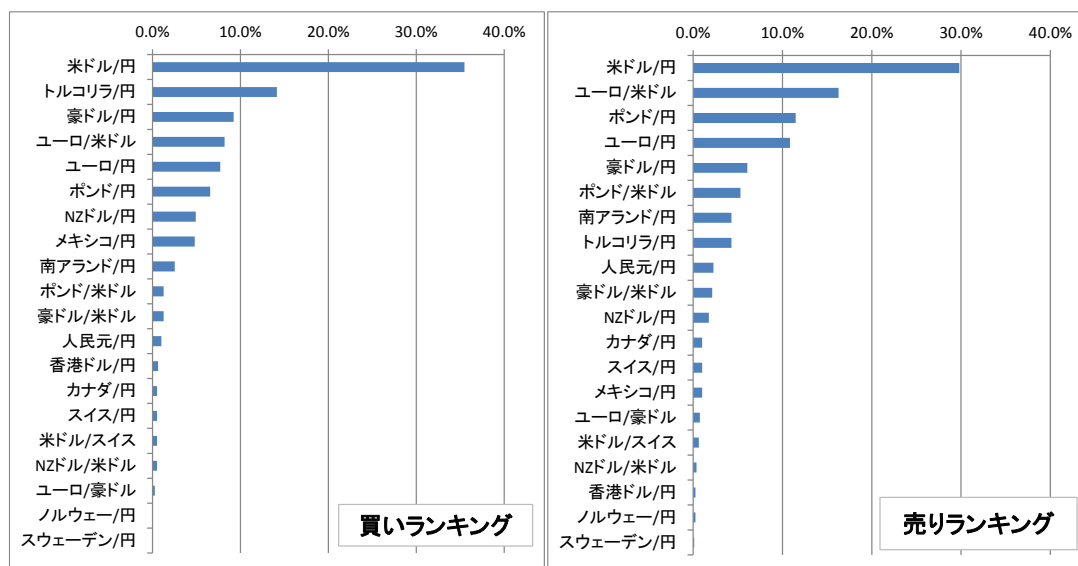
Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が35.5%の回答割合を集めて1位であった。以下、トルコリラ/円(14.1%)、豪ドル/円(9.2%)、ユーロ/米ドル(8.2%)、ユーロ/円(7.7%)の順に続いた。米ドル/円は2位以下に大差を付けて連続首位記録を63カ月に伸ばした。また、トルコリラ/円は3カ月連続で2位となった。トルコリラをめぐる情勢は必ずしも芳しいものではないが、このところのトルコリラ/円は下げが一服して持ち直しつつある。買い持ちにすれば高いスワップポイントが見込める高金利通貨の底入れは絶好の投資チャンスと見る個人投資家が少なくないという事だろう。

一方、「売り」で注目の通貨ペアは米ドル/円が29.8%の回答割合を集めて14カ月連続で首位をキープした。以下、ユーロ/米ドル(16.3%)、ポンド/円(11.5%)、ユーロ/円(10.9%)、豪ドル/円(6.1%)の順に続いた。

米ドル/円が「買い」「売り」ともに注目の通貨ペア第1位を独占する傾向が続いているが、実際にFX市場では米ドル/円の取引が全体の7-8割を占めるほどに高まっている。なお、11月の店頭FX市場における取引シェアは円ベースで74.4%に上った。

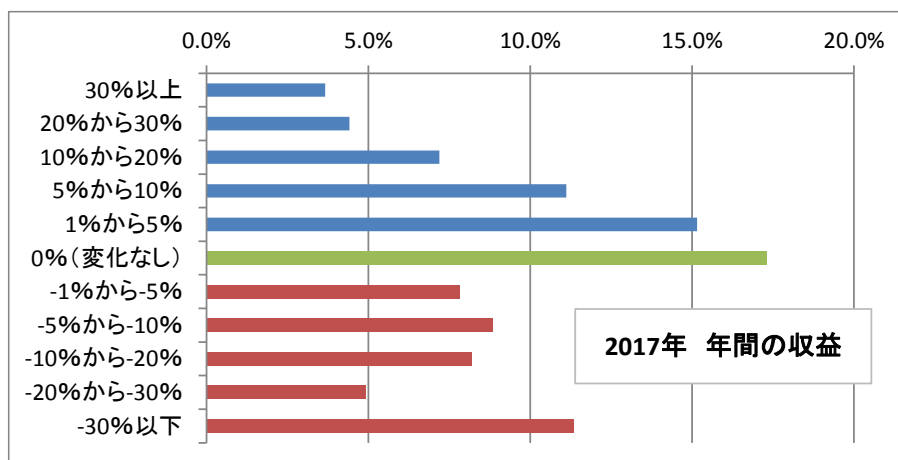


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: 2017年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい。

今回の特別質問として、「2017年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい。」と尋ねたところ、「0%(変化なし)」が17.3%と最も多く、ほとんど差がなく「1%から5%(15.2%)」と続き、以下「-30%以上(11.4%)」、「5%から10%(11.1%)」、「-5%から-10%(8.8%)」、「-10%から-20%(8.2%)」、「-1%から-5%(7.8%)」、「10%から20%(7.2%)」の順になった。単純に「利益」が出た向きと「損失」を被った向きに分けると、その割合は「利益」が41.6%、「損失」が41.1%と拮抗した。なお、前年同時期の調査では「利益」が36.8%、「損失」が51.5%だった。「損益について最大の要因」に関しては、利益組からは「市況が比較的安定していて予測可能な状況だった」との声や「トルコリラやメキシコペソなどの高金利通貨を安く買えた」などの声が出ていた。一方、損失組からは「ドル高予想が外れた」「相場見通しが悪い」などのほか、「ロスカットの失敗」を挙げる向きが目立った。ロスカットについては「遅すぎた」だけでなく「早すぎた」とする声もあった。

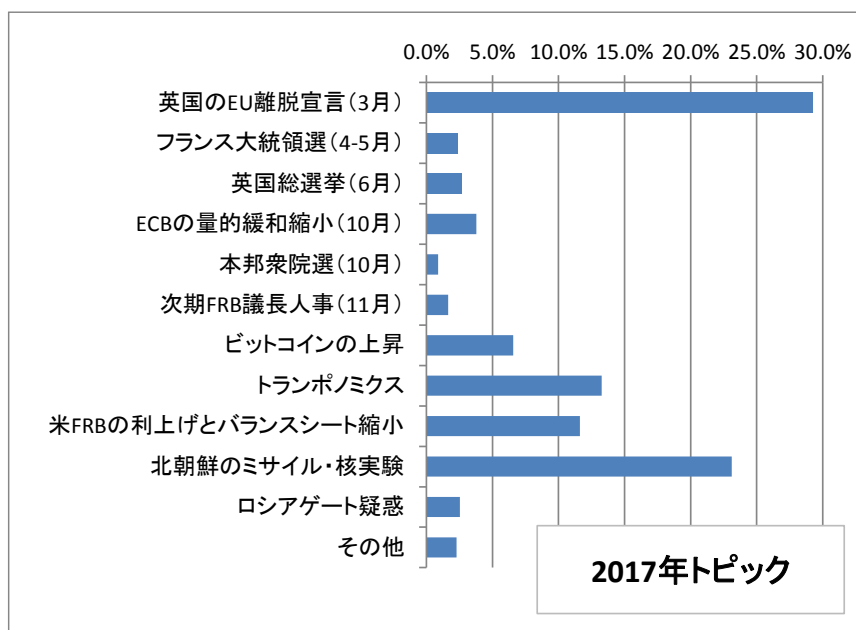


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7:2017年を代表する、為替市場へ影響を及ぼしたトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)

今回の二つ目の特別質問として、「2017年を代表する、為替市場へ影響を及ぼしたトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「英国のEU離脱宣言(3月)」を挙げた向きが29.3%と最も多かった。次いで「北朝鮮のミサイル・核実験(23.1%)」、「トランプノミクス(13.3%)」、「米国の利上げとバランスシート縮小(11.6%)」と続いた。なお、昨今話題の「ビットコインの上昇」については6.6%の回答にとどまった。話題には上っても為替相場への影響という点では小さかったという評価なのかもしれない。ちなみに昨年は「トランプ次期米大統領(米大統領選)」が6割近くの圧倒的な回答割合を占めた。2017年については為替相場を動かす核となる出来事が少なかったと言えるので、その分だけ穏やかな相場展開だったという事だろう。

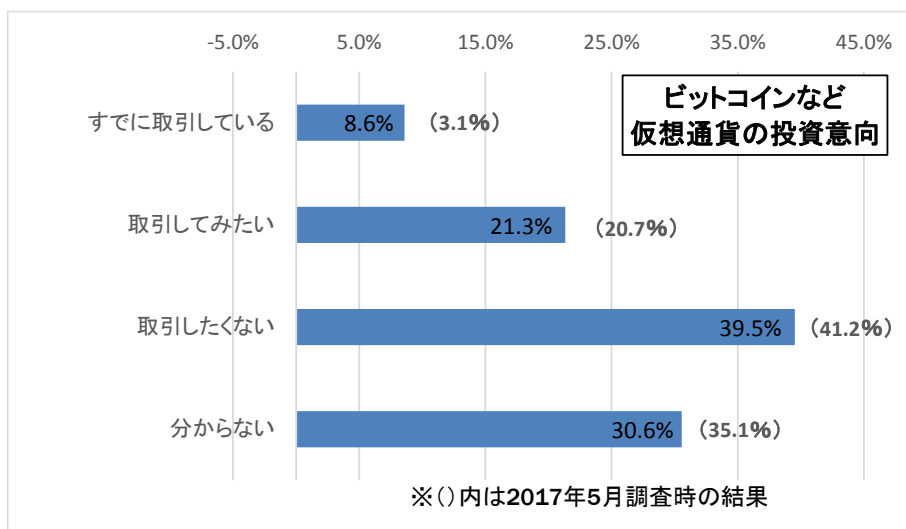


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問8: ビットコインなど、仮想通貨への投資意向についてお答えください。(ひとつだけ)

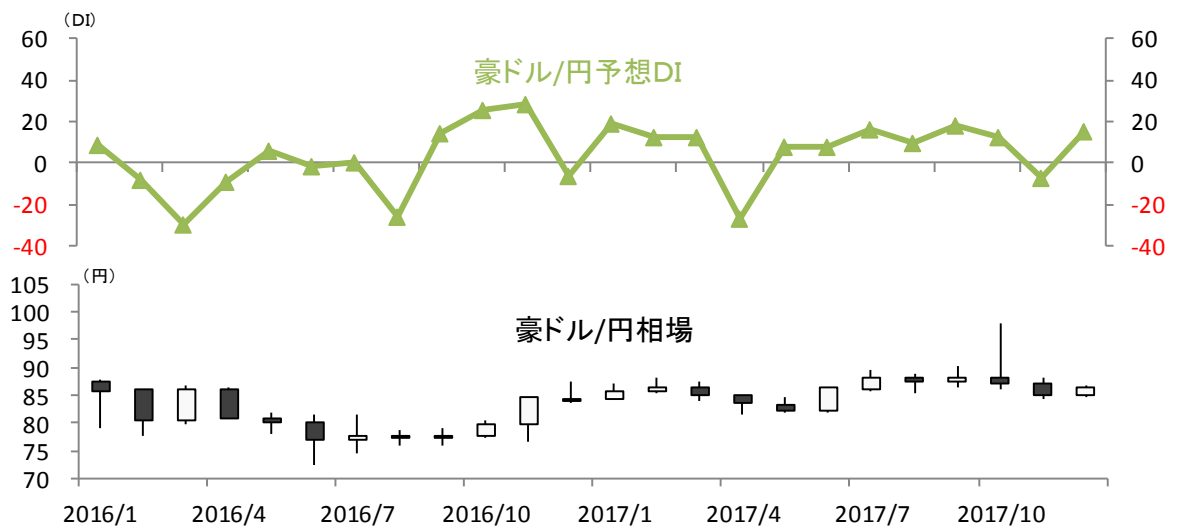
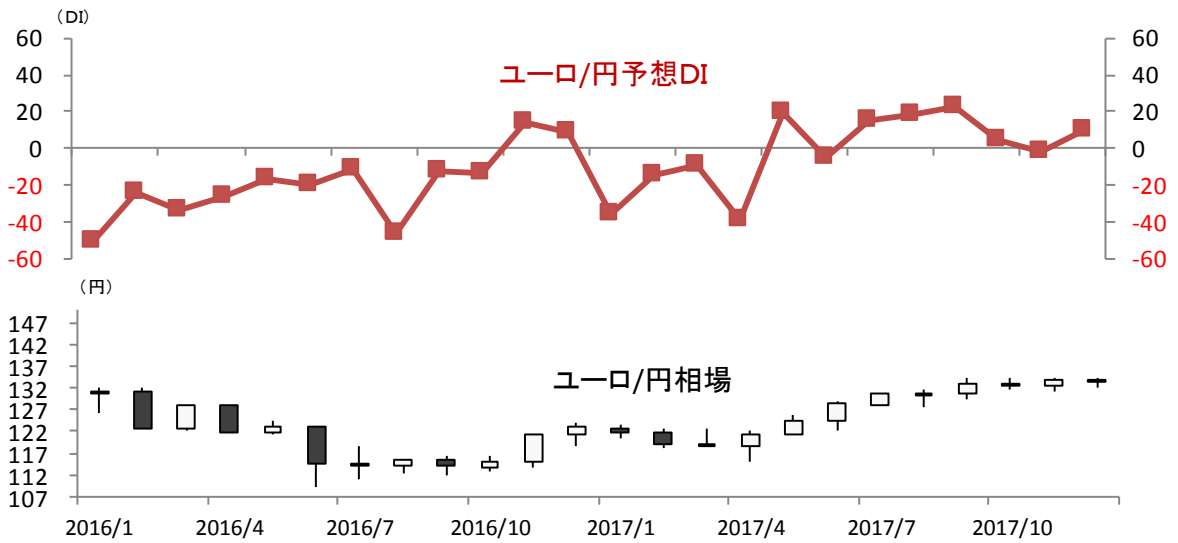
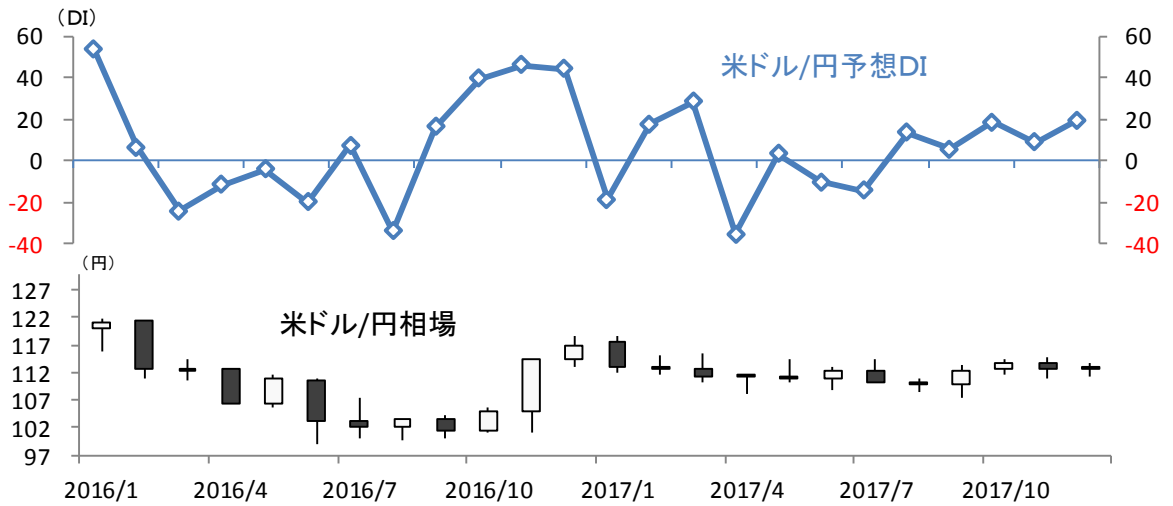
今回の三つ目の特別質問として、「ビットコインなど、仮想通貨への投資意向についてお答えください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「取引したくない」が39.5%を占めた。以下、「分からない(30.6%)」、「取引してみたい(21.3%)」と続き、「すでに取り引している」は8.6%だった。今年5月に同じ質問をした際は「すでに取り引している」と答えた割合は3.1%であったが、7カ月で5%ポイント以上増加した。「取引してみたい」や「取引したくない」の割合は大きく変わらなかったが、「分からない」の割合が5%ポイント近く減少したのは印象的だ。その成立ちや仕組み等「分かりにくい」点が少ない仮想通貨が、個人投資家の間に浸透し始めた様子を物語っている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第103回目となりました。調査開始から8年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4
2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
	2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
	3月	53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
	4月	21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8
	5月	38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9
	6月	33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0
	7月	30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9
	8月	45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4
	9月	40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2
	10月	48.2	29.4	18.8	35.5	31.5	4.0	37.9	25.6	12.3
	11月	40.0	31.1	8.9	29.0	31.4	-2.4	26.9	33.8	-6.9
	12月	45.5	26.1	19.4	35.0	25.0	10.0	38.0	22.6	15.4

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com